

ロシア極東の銀行セクター： その現状と北東アジアへの統合の可能性

極東連邦大学教授 リュドミーラ・ボチンツェワ
極東連邦大学准教授 アレクサンドル・スレスコ

北東アジアにおける多国間統合に向けた協力については、日本、中国、韓国及びロシアによる、地域に存在する生産要素、すなわち資本、生産資源、社会資源、イノベーション及び技術の共同利用の面において進展が見られる。

こうした文脈において、各国経済の銀行セクターは、経済成長の再生産のための基本条件、並びに資本、ビジネス、技術文化及び技術革新が相互に効果的に浸透するための前提条件を形成している。

現代のロシア経済の再編に伴う構造的変化により、極東地域には二つの相互接点の少ない再生産経路が形成された。一つは、国外市場志向で、資源商品の供給を続けるもの。もう一つは、有効需要が相当長期にわたり低位状態にある国内市場を志向するものだ。

企業の投資活動の優先課題として、生産設備の維持、生産力の増強及び近代化が挙げられる。地域経済成長のカギとなる問題の一つとして、経済主体の流動資産の充足度がある。2008年～2009年の危機は、この状況を深刻化させる

一方であったと同時に、企業活動の業績のみならず金融機関の取引活動にもかなり否定的な影響を及ぼした。

現在までに極東連邦管区（以下、「極東管区」という。）の銀行セクターの組織構成は、相当程度発達したものとなっている。これを構成しているのは、地元銀行¹とそれらの支店、駐在員事務所、補助事務所、業務窓口であり、また、銀行以外の機関（「銀行間決済センター」、「アジア太平洋銀行間通貨市場」）、さらには極東管区外の連邦構成主体に本店がある銀行の支店や駐在員事務所である（表1）。

銀行セクターの中で、「地域の特徴」を主に体现しているのは、地元商業銀行である。これらの金融機関の資金の流れの大半は地域内に留まっている。つまり、資金が再生産の各段階を回る間に、さまざまな経済的利害の特徴を「吸収」するのである。

2つの危機（2004年の流動性危機及び2008年の世界金融危機）の間に銀行セクターには構造変化が起き、地域外銀行の規模及び数が増加した。（図1）

表1 極東連邦管区の銀行セクターの組織構成

地 域	地元銀行数		支 店 網						銀行・支店総数	
	件数	比率 %	地元銀行の支店		他地域の銀行の支店 ²		支店内の内部組織 ³		件数	比率 %
			件数	%	件数	%	件数	%		
サハ共和国（ヤクーチア）	4	13.8	1	6.3	35	25.2	145	12.7	185	14.0
カムチャトカ地方	4	13.8	3	18.8	10	7.2	76	6.7	93	7.0
沿海地方	8	27.6	6	37.5	30	21.6	345	30.3	389	29.4
ハバロフスク地方	4	13.8	4	25.0	24	17.3	259	22.8	291	22.0
アムール州	3	10.3	0	0.0	13	9.4	167	14.7	183	13.8
マガダン州	1	3.4	0	0.0	8	5.8	37	3.3	46	3.5
サハリン州	5	17.2	2	12.5	9	6.5	83	7.3	99	7.5
ユダヤ自治州	0	0.0	0	0.0	6	4.3	17	1.5	23	1.7
チュコト自治管区	0	0.0	0	0.0	4	2.9	9	0.8	13	1.0
極東管区	29	100.0	16	100.0	139	100.0	1,138	100.0	1,322	100.0

¹ ロシアの銀行法制では、地元銀行とは、本店の所在地の管轄権を持つ機関によって登録された金融機関とされている。

² 他地域の銀行の支店とは、ロシア連邦の他の連邦構成主体にある管轄機関に登録された銀行の一部組織。

³ 銀行（支店）業務の拡大のため、現行の銀行法制下では、以下の内部組織を開設することができる。

- ・補助事務所：独立したバランスシートを持たず、コルレス口座の開設に制約がある。
- ・業務事務所：独立したバランスシートを持たず、取扱可能な銀行業務が大きく制限される。
- ・融資・出納事務所：中小企業及び個人への資金の提供及びその返還（返済）に関する業務、並びに法人及び個人の現金出納業務のみを行うことができる。
- ・出納拠点外出納業務窓口：法人及び個人の現金出納処理、及び個人の依頼による銀行口座開設を伴わない送金のみを行うことができる。

図1 極東管区の銀行セクターの組織構成の動向

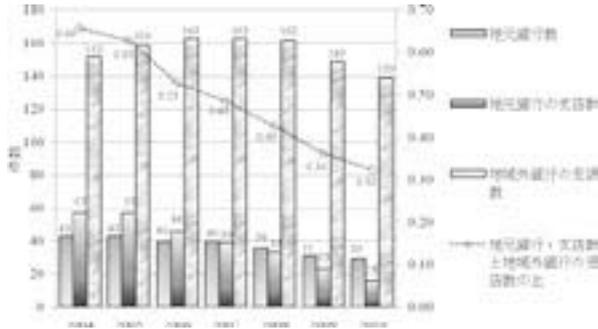


図2 沿海地方の銀行セクターの組織構成の動向

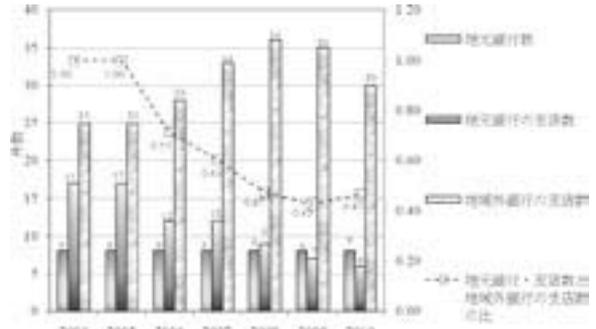


図3 信用供与債権及び延滞債権の動向

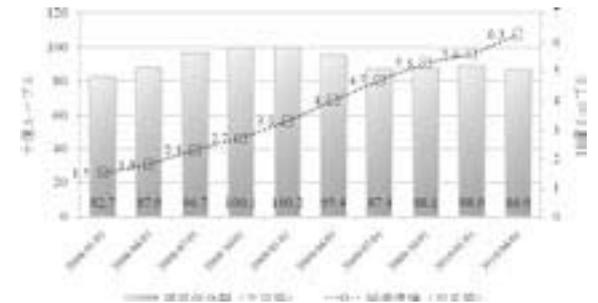
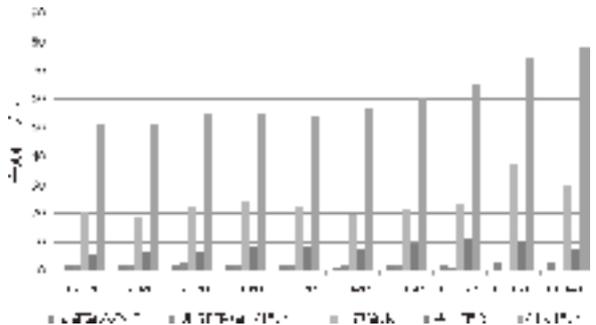


図4 沿海地方の銀行セクターの主な資金源の動向



分析対象期間に、地域の銀行セクターのうちの7機関において、連邦レベルの大規模金融機関との合併・吸収といった体制変化が生じた。地元銀行の一部は、経常経費削減のため支店網の合理化を行った。こうした再編の結果、地元銀行の支店数は、41か所減少した。こうした事態は、地域外銀行が極東管区の銀行セグメントの獲得に向け積極的な方針を取っていたことを背景として進行した。

まさに、2004年から2007年の間に、地域外の銀行の支店数は152か所から163か所に増加した。そして、危機的状況が起きて初めて、これらの組織の数が減少傾向に転じたのである。

まとめると、以上述べてきた2004年から2010年の間の極東管区における銀行組織の数の変化により、ロシア国内の他地域の金融機関の支店の立場は強化された。その要因は、監督機関の規準に対応する質的發展を示す指標について、地元銀行が必要な数値を達成できなかったことであった。

極東管区の銀行セクター全体に特徴的な傾向は、すべての個別の連邦構成主体においても見られる。図2の数値が示す通り、沿海地方の状況は地域全体と事実上同じであり、違うのは地元金融機関数と他地域のそれとの比率がわずかに回復しているという点である。と同時に、沿海地方の銀行セクターには、その構造において、極東管区他の連邦構成主体と比べて明らかに優位な点がある。

- ・極東管区で活動する地元銀行のうちの27.6%が沿海地方にあり、最多である。

- ・沿海地方の銀行セクターの支店網は十分に発達しており、数字の上では、他の地方を凌駕している。

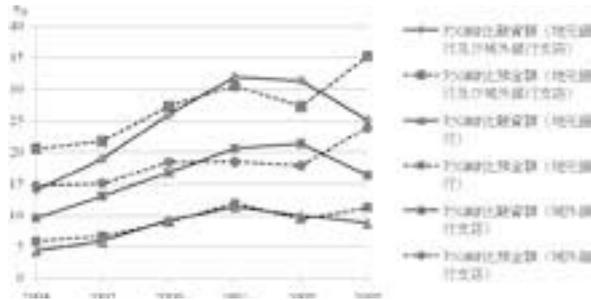
しかしながら、量的な特徴は、地域の経済成長と生活の質の向上とを実現する上での銀行の役割についての問いに答えるものではない。銀行セクターの潜在力評価のため、極東管区の銀行システムを主導する沿海地方の金融機関の質的な指標の分析を行ってみたい。

2008年末から2009年にかけてのロシア経済の景気後退傾向は、沿海地方を含む大多数の地方でも見られた。公式データによれば、2009年の地域総生産は1.5%増（不変価格ベース）⁴であった。しかしながら、我々の研究によれば、地域の銀行セクターの参画があってこの成長が成し遂げられたわけではなかった。このことは、実物経済への融資資金量のデータ及び商業銀行の資産基盤の状況から確認できる。

2008年には、法人及び個人に対する融資額は、年初に比べて21.3%、175億ルーブル増加した（図3）。しかし、2009年には銀行の信用供与は減少傾向を示した。これは、マクロレベルの要因及び「悪い」経営によるものであり、結果として、期限を超過した延滞債権が（融資総額の1.8%から7.3%へと）4倍に増加した。

⁴ 経済活動の分類ごとに生産量の変化の状況は異なっていた。例えば、有用地下資源の採掘は17.7%増加、加工産業は5.8%減少、水産業は3.9%増加、農業は9.3%増加、林業は17.3%減少であった。（出所：「2009年の沿海地方の社会・経済発展の結果」 <http://www.primorsky.ru/departments/economics/?s=91>

図5 沿海地方の実物経済及び銀行セクターのマクロ経済指標



貸出債権には上述の動きがあったが、同じ危機の期間の資金基盤は変わらず、基本的に個人の預金口座への資金流入及び顧客の当座口座の残高であった（図4）。

その他の手段、すなわち債券発行、銀行間信用などの利用は、それほど増えなかった。2008～2009年の2年間に、調達資金は1.55倍、815億ルーブルから1,267億ルーブルに増加した。

我々は、沿海地方の金融機関が経済成長に対してどれだけの潜在力を持つのかについて評価を行った。基本的な指標とするのは、調達資金、供給資金及び地域総生産（GRP）である。

仮説的には、質的向上を示す数値として、調達資金と実物経済への供給資金との均衡が観察されるはずである。しかしながら、この比率を取ると、少し異なる相関関係を示している（図5）。

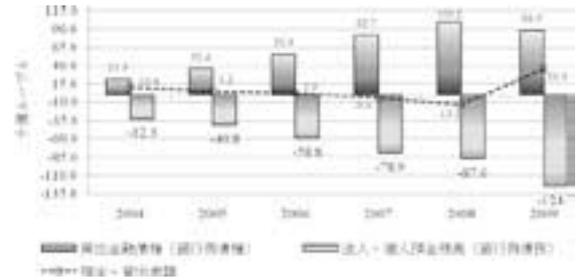
以下の特徴を指摘しておきたい。

2004～2006年：この期間に特徴的なのは、地元銀行による資金供給であり、このことは、手持ち資金をどれだけ信用供与に回すかという積極性を相対比較することから示される。全ての金融機関においておしなべて、資金供給は限定的であった。全体として、流動性の確保を図ったことが見てとれる。まさに、預金残高の対地域総生産（GRR）比、信用供与額の対GRP比では、前者が大きかった。

2007～2008年：資金流入の大部分（111億ルーブル）は、域外銀行の大規模支店で行われた。これは何よりも、地元銀行が融資増加のペースに合わせて資金基盤の拡大を図ることができなかったことによる。

2009年：様々な分野の鉱工業生産が減少したこと及び信用リスクが拡大したことを背景に、信用供与額が急減した。同時に、2009年下半期に金融市場が安定化したことで、地元銀行及び域外銀行支店ともに流動性が高まった。このことは、預金額と融資額の差が2009年末に359億ルーブルに達したことにより確認できる。客観的に見て、地域経済はこの分の資金を融資として受け取り損ねている（図6）。

図6 沿海地方の銀行セクターの預金、貸出業務の動向（2004～2009年）



我々の研究により、地域で活動する金融機関相互の相対的力関係を明らかにすることができた。すなわち、域外銀行の支店のシェアは、預金市場及び融資市場でそれぞれ平均70%、67%であった。連邦レベルの大規模行（大部分は政府資本の入った金融機関）は、沿海地方の銀行サービスの50%近くを支配している。2009年の地域経済から（本店所在地へ）の資金流出の大部分はこれらの銀行によるものであり、それによって鉱工業企業への融資が急速に縮小した。我々の推計によれば、この流出は268億ルーブルで、調達した資金総額の32%に当たる。これらの銀行はズベルバンク、VTBグループ各行などといった大規模行であり、2009年に連邦政府及びロシア銀行（中央銀行）が劣後ローンの形でこれらの銀行に供与した資金援助の額（ズベルバンクは危機の期間中に5,000億ルーブル、VTBは2,000億ルーブル）から考えて、これらの銀行の地域経済浮揚への関心はあまり高くないと考えられる。

地元の金融機関も実物経済セクターへの融資を絞ったが、規模は域外銀行のそれとは異なる。沿海地方企業への資金供給不足は91億ルーブル、調達した資金総額の23%に当たる。なお、商業銀行はこれらの資金を地域外に持ち出したわけではなく、ロシア銀行（中央銀行）沿海地方管理局のコルレス口座（当座預金口座）に置くかもしくは現金資産となっていた。当然のことながら、これにより当該金融機関には過剰な流動性が形成され、同時に「特定のセグメントの金融市場での取引のための前提条件」が整った。

一例として、資金運用の一セグメントである、地域の銀行間市場のデータを分析してみよう（図7）。

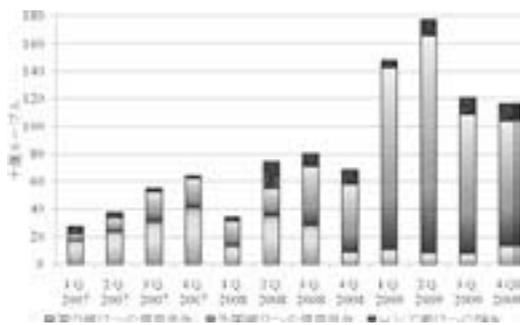
資金運用セグメントのうちの地域銀行間市場の取引高は、次の運用手段の取引で示される。

- ・外国銀行への信用供与
- ・国内銀行への信用供与
- ・ロシア銀行（中央銀行）への預金

このセグメントにおける取引は2日から7日という超短期で行われる。

図7によると、2008年第3四半期まで地域の金融機関は

図7 資金運用セグメントのうちの地域銀行間市場の取引高動向



国内銀行へ資金を供給していた。取引額は2007年第4四半期にピークに達し、その額は410億ルーブルであった。国内銀行への信用供与は2008年第4四半期に急減している。

地域の商業銀行による外国銀行との銀行間取引は、逆の傾向を示している。2008年末から、外国銀行への資金供給取引が急増した。額が最大となったのは、2009年第1、第2四半期で、それぞれ1,320億ルーブル、1,570億ルーブルを記録した。同様の状況はロシア銀行（中央銀行）への預金にも見られ、地元銀行はこの運用手段を積極的に利用した。

金融危機の下で、地元銀行は実物経済セクターへの融資の面でのリスクを回避しようとした。銀行は、預金の増加により生じた余剰資金を信用度の高い運用手段、すなわち外国銀行への信用供与及びロシア銀行への預金として運用することを選好した。

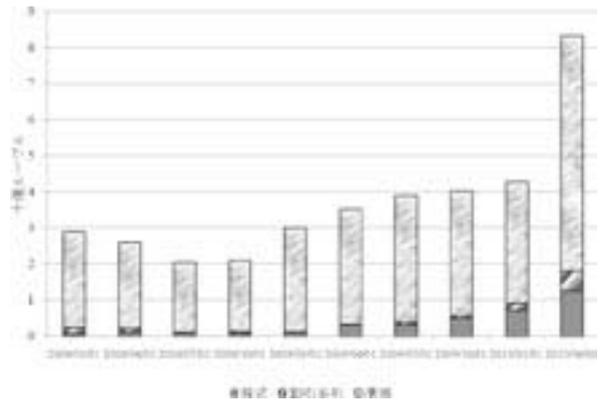
地元銀行にとってリスクの低い資金運用手段としては、このほかに債券、具体的にはロシア連邦債、ロシア銀行債及びその他の信用度の高い発行体の債券がある（図8）。

以上のように、地域の銀行セクターの動きの中には肯定的な傾向も否定的な傾向もみられる。商業銀行により蓄積された資金の額はかなり増加したが、調達した資金が実物セクターに融資の形で向けられることはなかった。金融機関は銀行間市場あるいはその他の流動性の高い資産を資金運用先として選好した。

現下の状況において沿海地方の経済は、經常活動資金に加え、特に投資活動資金の不足に直面している。銀行セクター側の資産構成で信用供与は50~60%あるいはそれ以上という大きな割合を占めているものの、実物経済セクター企業の債務構成での銀行融資の比重は非常に少ない。

例えば、沿海地方の鉱工業における企業の固定資本投資総額に占める長期貸付（3年以上）の比率は2.9%（36億ルー

図8 地元銀行の有価証券への資金投下構造



ブル）であった。このことは、大部分の産業分野において、長期資金の借入元の中で中心的役割を果たしているのが銀行融資ではなく、他の調達源であるという状況から生じた結果である。このうち、企業・組織の自己資金は14.5%（181億ルーブル）、他の組織からの借入は8.4%（106億ルーブル）であった外、APEC準備プログラムの枠内で連邦予算体系から投入された資金は31.2%（390億ルーブル）だった。

企業への長期貸出の額を制約する要因としては、このほかに、沿海地方の銀行セクターの資金基盤構成が挙げられる。根本的に重要なのは、調達資金の構成の中で「長期」債務すなわち3年以上の期間を持つ資金の割合が増加することであり、このことにより鉱工業への長期貸出を増加させることが可能になるのだ（表2）。

表2から、2008年沿海地方の銀行セクターの資金基盤の構成において、長期の調達資金の割合は5.25%（19億ルーブル）、2009年は4.99%（22億ルーブル）であったことが分かる。

さらに、実物経済セクターの長期資金需要が充足されなかったのは、銀行セクターに「長期」債務が不足していただけではなく、資本が少ないことの結果でもあった。例えば、2008年の沿海地方の地元銀行の資本金額は41億ルーブル、2009年は47億ルーブルであった。それぞれ当該決算期の銀行の財務構成の中で9.7%、9.6%を占めた。

これらの各要因が総合して、沿海地方の銀行セクターの地域の企業への投資資金貸付の可能性を制約し、また特にイノベーション活動⁵への資金を制約した。このことは、当該の数値によって示することができる（表3）。

銀行業界が実物経済セクターに資金を供給することはもちろん重要であるが、対外経済活動に関わる業務もこの地域の銀行が力を入れている分野の一つである。これは、以

⁵ イノベーション活動：アイデア（通常は、科学研究開発あるいはその他の科学技術成果）を、市場に流通する新製品あるいは製品改良、もしくは実地に活用される新生産工程あるいは改良生産工程に転用することに関連した活動のこと。イノベーション活動は、科学、技術、組織、財務、営業の各取組を総合したものであり、まさにその総体としてイノベーションに導くものである。

表2 沿海地方の銀行セクターの調達資金の年限別構成

年限別調達資金	2008年		2009年		増 減	
	千ルーブル	比重%	千ルーブル	比重%	千ルーブル	%
短期（1年以下）	27,752,340	73.62	30,308,410	69.18	2,556,070	-4.44
要求払預金	17,673,959	46.88	23,508,665	53.66	5,834,706	6.78
30日以下	1,498,760	3.98	176,037	0.40	-1,322,723	-3.57
31日以上、90日以下	646,129	1.71	317,959	0.73	-328,170	-0.99
91日以上、180日以下	1,780,697	4.72	1,203,546	2.75	-577,151	-1.98
181日以上、1年以下	6,152,795	16.32	5,102,203	11.65	-1,050,592	-4.68
中期（1年超、3年）	7,966,746	21.13	11,315,059	25.83	3,348,313	4.69
長期（3年超）	1,978,323	5.25	2,187,727	4.99	209,404	-0.25
合 計	37,697,409	100.00	43,811,196	100.00	6,113,787	-

表3 経済活動分野別のイノベーション推進組織⁶のイノベーション製品出荷額（百万ドル）

項 目	2004	2005	2006	2007	2008
1. 全分野合計:	117.1	2,108.5	2,321.0	855.2	2,111.8
1.1. 林業及び関連サービス	54.0	-	-	-	-
1.2. 鉱物資源採掘	9.1	10.2	-	-	-
1.3. 食品（飲料を含む）製造	20.8	132.3	182.0	305.3	13.7
1.4. その他非金属の鉱産品製造	33.2	-	23.0	32.5	50.6
1.5. ゴム・プラスチック製品製造	-	0.3	-	-	-
1.6. 電気機器、電子機器及び光学機器製造	-	-	-	7.7	-
1.7. 船舶、航空機その他の輸送機械製造	-	1,965.7	2,116.0	509.7	796.4
1.8. 通信	-	-	-	-	1,235.7
1.9. その他のサービス	-	-	-	-	15.4
2. GRPに占めるイノベーション製品比率 %	0.07	1.12	1.07	0.33	0.66
3. イノベーションへの地元銀行の参加額, 百万ルーブル	4.8	124.0	212.4	97.1	211.1

下のような状況があるためである。

- ・沿海地方を含む極東地域はロシアの全地域の中で最も国境に開かれた地域であり、相応のインフラ（港湾、陸上国境通過路）を持っている。

- ・国外の市場及び北東アジア諸国からの財・サービスの輸入を志向する開放的な性格を持つ経済である。

したがって、沿海地方の銀行サービス市場の特徴として、財・サービスの貿易に関連した輸出入手続きを支援することを志向した金融機関が国際業務を積極的に展開していることを挙げられよう。

地域の国際銀行サービス市場では、地元銀行の本支店及び域外銀行の支店を含む大多数の沿海地方の金融機関が活動している。表4には、地元銀行が外国銀行に開設したコ

ルレス口座（Nostro = 当方勘定）によって形成されるコルレス網を示す。

沿海地方の銀行セクターのコルレス関係の地理的広がり大きい。これは、沿海地方の地政学的位置によるものであり、またアジア太平洋地域市場を志向していることによるものである。しかしながら、優先的に直接のコルレス関係構築を図っているのは中国及び日本である。その理由は、地元銀行が貿易支援サービスを提供している沿海地方の企業の取引先がこれらの国々の企業、団体であるためである。実際、2009年沿海地方の貿易に占める中国の割合は36.49%であり、日本は31.88%、韓国は11.87%で、その他の国々が19.76%であった。

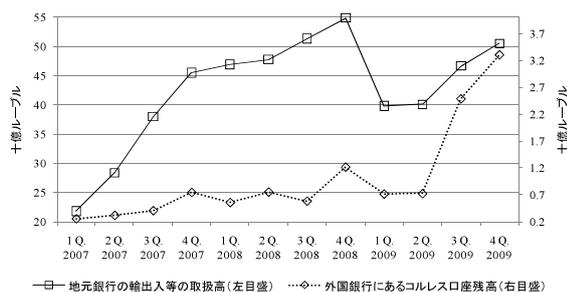
コルレス勘定（表4）を通じては、当該通貨により、以

⁶ イノベーション推進組織：新製品・改良製品あるいは新生産工程・改良生産工程の開発・導入、もしくはその他のイノベーション活動を実施している組織のこと。イノベーション商品、同業務及びサービスの量（額）には、当該決算期に様々な技術イノベーションを基礎として生産された製品が含まれる。

表4 沿海地方の商業銀行のコレレス網

銀行名	北東アジア諸国			その他
	日本	中国	韓国	
公開型株式会社「プリムソツバンク」	1. 三菱東京UFJ銀行 2. スタンダードチャータード銀行東京支店	1. 中国農業銀行 2. 中国銀行 3. 中国工商銀行 4. 中国建設銀行 5. ハルビン銀行	1. 国民銀行	1. JP Morgan Chase Bank 2. Standard Chartered Bank 3. Bank for Foreign Trade of Vietnam 4. VTB Bank (Deutschland) AG 5. Commerzbank AG
公開型株式会社「ダリネポストーチヌイバンク(極東銀行)」	1. 三菱東京UFJ銀行 2. アイエヌジーバンクエヌヴィ東京支店	1. 中国銀行 2. 中国建設銀行 3. 中国農業銀行	-	1. Commerzbank AG 2. The Bank of New York Mellon 3. HSBC Bank USA
公開型株式会社「バンクプリモーリエ(沿海地方銀行)」	1. 三菱東京UFJ銀行	1. 中国農業銀行 2. 中国銀行	1. 国民銀行 2. 韓国外換銀行	1. Commerzbank AG 2. The Bank of New York Mellon
有限責任会社「プリムテルコムバンク」	1. 三菱東京UFJ銀行	-	-	1. VTB Bank (Deutschland) AG
公開型株式会社「サミット・バンク」	-	-	1. 国民銀行	1. Raiffeisen Zentralbank Oesterreich AG
コレレス関係総数	6	10	4	12

図9 地元銀行が外国銀行に開設したコレレス口座の取引額の動向



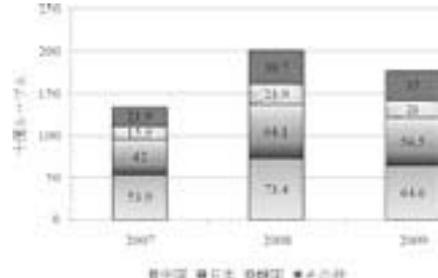
下の処理が行われている。

- ・ 契約により北東アジア諸国に輸出された商品の代金の入金
- ・ 契約により北東アジア諸国から輸入された商品の代金支払い
- ・ 北東アジアの国民（主に中国人）が「運び屋貿易」により持ち込んだ商品の販売代金の自国向送金
- ・ 提供を受けたサービスの決済
- ・ 外国銀行への信用供与

図9に、地元銀行のコレレス口座を通じて処理された輸出入等の取引総額（外国銀行への信用供与を含まず）を示した。

2008年末までに輸出入等の決済額は大きく伸び、2007年比で50.3%、673億ルーブルの増加となったことを指摘しておく必要がある。2009年の当初は、世界金融危機の影響で当該取引が急減したことが特徴的だった。沿海地方の貿易総額は、2008年の75億ドルから2009年には43億ドルに

図10 地元銀行が外国銀行に開設したコレレス口座の送金額の構成



減少した。その結果、地元銀行が外国銀行に開設したコレレス口座の残高が増加した。2009年一年間で、7億ルーブルから33億ルーブルになった。

国際関連の銀行サービスにかかる地域市場の特徴は次のとおりである。輸出取引決済の67%は（中央連邦管区に本店を持つ）銀行の支店を通じて行われ、輸入の76%は地元銀行を通じて行われている。地元銀行のコレレス口座の送金額の国別構成を見ると、中国と日本が大きな比重を占めている（図10）。上述のとおり、これは沿海地方の貿易構造によるものである。

沿海地方の地元銀行のうち、国際関連の銀行サービス市場における主要プレイヤーとなっているのは、公開型株式会社「ダリネポストーチヌイバンク（極東銀行）」、公開型株式会社「プリムソツバンク」、公開型株式会社「バンクプリモーリエ（沿海地方銀行）」である。これらの金融機関には、外国銀行のコレレス口座を通じた輸出入等の決済の大部分が集中している（表5）。

地元銀行のうちダリネポストーチヌイバンク及びプリム

表5 外国銀行にあるコルレス口座（Nostro口座）を通じた送金額の沿海地方の地元銀行別構成

銀行名	01.01.2008		01.01.2009		01.01.2010	
	千ルーブル	%	千ルーブル	%	千ルーブル	%
公開型株式会社「ダリネポ ストーチヌイバンク（極東 銀行）」	51,013,203	38.12	79,324,316	39.45	71,359,999	40.28
有限責任会社「プリムテル コムバンク」	5,434,462	4.06	19,738,174	9.82	2,544,446	1.44
公開型株式会社「バンクプ リモーリエ（沿海地方銀行）」	40,165,739	30.01	47,532,988	23.64	36,554,073	20.63
公開型株式会社「プリムソ ツバンク」	37,201,850	27.80	54,463,713	27.08	66,659,328	37.62
公開型株式会社「サミット・ バンク」	9,298	0.01	26,354	0.01	52,863	0.03
合計	133,824,606	100.00	201,085,545	100.00	177,170,709	100.00

ソツバンクのみに外国銀行がコルレス口座（Loro口座）を開設している。これらの金融機関は、外国銀行からの融資を資金調達手段として積極的に活用している。また、プリムソツバンクは欧州復興開発銀行（EBRD）の資本参加を受けている。EBRDの持ち分は12.5%である。

ダリネポストーチヌイバンクは、2009年に中国の国家開発銀行との間に融資契約を締結したロシアの最初の地方銀行のうちの一行で、契約額は1,000万ドルであった。同行は、国際資本市場における資金調達において、EBRDと積極的な協力もしている。

以上の見てきたように、地域の銀行セクターには、ようやく北東アジア諸国との協力を発展させる前提条件が整ったところである。今後、地域の銀行セクターと北東アジア諸国の銀行とが相互協力を活発化させるのは、以下の分野となろう。

- ・ 経済発展及び銀行業務に関する情報交換の強化
- ・ 現代的な国際決済方式・手段（信用状、保証状）の導入
- ・ 対外経済関係及び国境貿易にかかる銀行サービスの範囲の拡大（貿易金融や輸出金融保証の効果的な仕組みの構築を含む）

現実には、ロシア連邦政府にとって北東アジアというのは、世界経済の中で比較的新しい存在である。幅広い相互協力の可能性があるにもかかわらず、北東アジア地域の統合プロセスにロシア及びそのうちの極東地域を組み込んでいく効果的な戦略を、ロシア政府はいまのところ持ち合わせていない。銀行セクターは、自由な資本の集中源として、

グローバル経済の条件の下で、自身を国際的な水準まで進めるとともに、ロシアをアジア太平洋地域に統合する過程において連結環となりうるのである。

参考サイト

1. ロシア連邦中央銀行公式サイト: <http://www.cbr.ru/>
2. ロシア連邦統計局沿海地方支局公式サイト: <http://www.primstat.ru/default.aspx>
3. 公開型株式会社「ポストークビジネスバンク」公式サイト: <http://www.vbb.ru/>
4. 公開型株式会社「ダリネポストーチヌイバンク」公式サイト: <http://www.dvbank.ru/>
5. 閉鎖型株式会社「銀行間決済センター」公式サイト: <http://www.mrc.ru/>
6. 閉鎖型株式会社「沿海地方交易商業銀行「メルクリー」」公式サイト: <http://www.bankm.ru/>
7. 有限責任会社「沿海地方地域商業銀行」公式サイト: <http://www.ptkb.ru/>
8. 公開型株式会社「バンクプリモーリエ」公式サイト: <http://www.primbank.ru/>
9. 公開型株式会社「プリムソツバンク」公式サイト: <http://www.pskb.com/>
10. 公開型株式会社「サミット・バンク」公式サイト: <http://www.kbsammit.ru>

[ロシア語原稿をERINAで翻訳]

*The Banking Sector of the Russian Far East:
The Current Situation and Potential for Integration into
Northeast Asia*

VOTINTSEVA, Lyudmila I.

Professor, Far Eastern Federal University

SLEZKO, Aleksandr N.

Associate Professor, Far Eastern Federal University

Summary

In this paper we examined the institutional foundations for the development of the banking business in the Far Eastern district. We pointed out the level of development of the banking infrastructure with regard to the regions of the Far East, and to Primorsky Krai in particular. We established the degree of participation of the regional banking sector in the provision of finance to the economy of Primorsky Krai. We revealed the factors and conditions which held back the provision of credit to enterprises and organizations of the region by commercial banks during the financial crisis. We determined the indicators of the functions of the banking sector in the area of the formation of a resource base and the provision of financing for business. We focused on the role of regional banks in the support of innovative activities. We paid particular attention to the development of the international economic cooperation of local banks with the financial institutions of the countries of Northeast Asia.

[Translated by ERINA]